

夢の大舞台で、
まずは1勝
第12回全国高等学校選抜ラグビーフットボール大会に出場決定

愛知県立三好高等学校ラグビー部



▶▶▶プロフィール

三好高等学校ラグビー部 部員数は1・2年生合わせて32人。トヨタ自動車のトップリーグ選手からのコーチングや、全国高等学校体育連盟ラグビー専門部で毎年実施しているニュージーランドラグビー研修へ参加するなど、積極的なチーム強化を実施。今年の2月に行われた愛知県新人大会では準優勝を収めるなど、これまでの取り組みが、着実に成果として表れます。

▶全国大会に向けて練習に励む選手たち。お互いが声を出して、コミュニケーションを取りながら戦術の確認をします。



球 技では最も多い1チーム15人でプレーし、楯円のボールを奪い合って相手陣内のインゴールまで運び得点を競うスポーツ「ラグビー」。相手をかわすスピードとテクニック、そしてパワーなど運動のあらゆる要素に加え、高度な戦術と判断力が要求されるスポーツです。今回は4月1日から埼玉県で行われる第12回全国高等学校選抜ラグビーフットボール大会へ、推薦枠での出場が決定した三好高等学校ラグビー部を紹介します。

創部37年目で初の全国大会出場を決めたラグビー部。平成20年度に愛知県から「愛知スーパーハイスクール研修指定推進事業」の部活部門に指定され、社会人のトップリーグでの経験を持つ

コーチの指導を受けながら練習に励んでいます。コーチが大切にするのは選手それぞれが目的を持って練習を行うこと。昨年からは選手たちが自主的にその日の目標を決め、練習メニューを考えることでチーム力の向上と、今まで以上に内容の濃い練習を実践してきました。また、毎日のミーティングで選手同士、また監督である服部尚久先生と選手とのコミュニケーションをしっかりと取り、部で掲げる「守り勝つ」の精神を全員で意志統一するように心掛けました。

練習の成果が結果として表れたのが今年2月に行われた愛知県新人大会。強豪校がひしめくこの大会で準優勝という好成績を収めます。「この大会の内容が良かったので、全国大会出場の推薦をいただくことができました」と服部先生が話すように、準決勝ではロスタイムの10分間、全国大会常連の西陵高校の猛攻撃を耐え抜き、大接戦の未撃破。決勝では春日丘高校に惜しくも敗れはしたものの、前半につけられた24対7の大差を、後半で一時は同点に追いつくなど、驚異の粘り強さを発揮。その他の試合でも最小限の失点に抑えるなど、守りの中から勝機を見出す試合運びが高く評価され、全国大会出場につながりました。

現在は全国大会に向けて、試合を意識しながらパス回しやタックルなどを中心に練習に励む選手たち。服部先生は「全国の強豪と対戦する中で、たくさんを経験して、まずは1勝を目標に頑張ってくださいね」とエールを送ります。キャプテンの山田理温くんは「初の全国大会なので、1試合1試合を大切に、秋の大会につながるような内容にしたいです。自分を犠牲にしてもボールを前に進める精神で頑張ります」と意気込みを話します。選手と監督が一丸となって全国大会という大舞台に向けて瞳を輝かせます。